



## スキャナ用IoT Connector

クラウド接続デバイスから得た情報に基づく判断

現在、企業が導入するクラウド対応エッジデバイスは増え続けていますが、リアルタイムの意思決定にどうしても必要な情報とインサイトを取得するために、それらのデバイスからデータを収集する一貫した単純な方法がまだありません。この大きくなる一方の要求に対応するため、Zebraではバーコードスキャナと固定型RFIDリーダーのポートフォリオの機能として、IoT Connectorを開発しました。IoT Connectorは完全に自動化されたリアルタイムデータ収集ツールであり、得られたデータを分析して対処することにより、企業を活性化してZebraのバーコードスキャナを最大限に活用できるようにします。



## データに基づくインサイト

### クラウドの統合が容易

IoT Connectorは、Zebraのスキャナから選択されたIoTエンドポイント（クラウドのデータレイク、ローカルなログファイル、ネットワークの共有フォルダー）へデータを転送します。

### エンタープライズ向けデータ収集

IoT Connectorにより、分析ダッシュボードがリアルタイムアラート、稼働状況に関する統計情報、バーコードスキャン、資産情報など、Zebraのバーコードスキャナ群から得た重要な情報にアクセスできるようになります。情報はすべて場所と日時のスタンプが付いています。

### 代替データパイプ

IoT Connectorは既存のホストアプリケーション（POS、電子カルテなど）とは別個にデータを転送するので、既存の業務アプリや保護された業務に不可欠なデータストリームを変更することなく、重要なインサイトを利用できるようになります。

### 既製のツール

IoT ConnectorによってZebraのスキャナを容易に設定できます。コーディングは不要です。収集するデータの種類、収集頻度、データの送信先を指定するだけで、あとはすべてIoT Connectorが引き受けます。

### 常時接続

ホストアプリケーションに転送するのと同じデータをIoT Connectorにも転送できます。また、データ収集のためにデバイスをオフラインにする必要がないので、バーコードスキャナは中断することなく、状態や情報を継続的に伝えることができます。

### スキャナに組み込まれている優位性

50年以上のイノベーションの実績を誇るパートナーが開発し、改善してきた機能を活用してスキャンできます。Zebraはスキャンのプロセスを他社よりはるかに理解しています。だからこそ、一連のソフトウェア機能であるZebra DataCapture DNAをすべてのスキャナに組み込み、貴社のチームが将来のニーズに適応し、業績を拡大できるようにしているのです。

\*リアルタイムアラートはIoT Connectorの今後のバージョンでリリースされる予定ですが、ハードウェア製品モデルによって異なる場合があります。また、ファームウェアのアップデートが必要になります。

### 市場と用途

- ・小売
- ・医療
- ・倉庫業
- ・運輸／物流
- ・製造

### 主な特徴

- ・リアルタイムアラート\*
- ・稼働状況に関する統計情報
- ・バーコードスキャン
- ・資産情報
- ・場所と日時のスタンプ

IoT ConnectorによってZebraのスキャナからアクションにつながる重要なインサイトを  
取得しましょう。

詳細については[www.zebra.com/loTConnector](http://www.zebra.com/loTConnector)をご覧ください。